

学年	中学1年	教科	理科	科目	理科	単位数	4
教科書名	未来へひろがるサイエンス1 (啓林館)			副教材名	Key ワーク理科1年 (教育開発出版)		
クラス・コース	中高一貫コース			担当者名	田邊 賢宗		

I 目標

自然に対する関心を高め、目標意識をもって観察・実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

II 授業のねらい

「いろいろな生物とその共通点」

身近な生物の外部形態についての観察・実験を行い、共通点や相違点を見出すとともに、いろいろな生物のからだの基本的なつくりを理解させる。また、見出した特徴にもとづいて生物を分類するための技能を身に付けさせる。

「活きている地球」

火山を形成する岩石、地震のしくみ、大地が変動していくしくみについて、身近なことや実物・映像を通じて学習する。また、化石を通じて、地層が形成していく時間変遷を学習する。

「身のまわりの物質」

身のまわりの物質についての観察、実験などを行い、物質の性質や溶解、状態変化について理解させるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育てる。

「光・音・力による現象」

光や音、力についての観察・実験を通して学習し、それらの規則性や関係性を理解させる。

III 授業の進め方

教科書や映像教材を用いて、授業を展開する。定期的に小テスト実施し、定着の度合いを図る。実験については実験のための事前授業を行い、実験後にレポートを提出させることにより事後学習を深める。

IV 学習上の留意点

自主的に受ける姿勢を養うために、グループワークや実験を取り入れる。実験においては、レポート作成を行うことが必須である。受け身の姿勢にならないように、座学においても常に発問形式で授業を展開する。

V 定期試験

年間5回実施。内容は授業に準ずる。

VI 評価の方法

定期考査、小テスト、実験レポートなどを総合的に評価する。

VII 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	ガイダンス 【実習】生物のなかま分け 「いろいろな生物とその共通点」 1章 植物の特徴と分類 【実習】顕微鏡・ルーペの使い方 【観察】花、葉、根のつくり	レポート提出 小テスト 中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな花のつくりや葉、茎、根の構造を理解することができる。 ・種子植物とそれ以外の植物の明確な違いを理解することができる。 ・植物とは異なる動物の特徴を認識し、動物の分類方法について考察できる。 ・脊椎動物の5つの仲間の特徴を説明し、身近に見られる種類を挙げられる。 ・無脊椎動物について理解し、脊椎動物との相違点について認識できる。
	5	2章 動物の特徴と分類 【実習】動物の分類 「活着ている地球」 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 【実習】地震のゆれはじめの特徴 【観察】火成岩の観察		
	6	3章 火をふく大地 【実験】マグマの性質と火山の形の関係	レポート提出 小テスト 期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・地震計の記録から地震のゆれの特徴が理解でき、記録をもとに地震の揺れの伝わり方の規則性を見出すことができる。 ・地震の原因などをプレートの動きと関連付けて理解できる。 ・火山の活動とマグマの性質の関係が理解でき、火成岩の特徴と関連付けられる。 ・土地で見られる地層・化石からその土地の成り立ちを考察できる。 ・プレートや火山活動の関連を総合的に考え、大地の恵みや災害を理解できる。
	7	4章 語る大地 【観察】堆積岩の観察		
二学期	9	ガイダンス 【実習】ガスバーナーの使い方 「身のまわりの物質」 1章 いろいろな物質とその性質 【実験】謎の物質Xの正体 【実験】密度による物質の区別	レポート提出 小テスト 中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・化学実験器具の取り扱いを認識できる。 ・身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べることができる。 ・無機物と有機物、金属と非金属の違いを理解できる。 ・密度で物質を比べることができる。 ・化学式を正しく表記することができる。 ・気体発生とその性質を理解できる。 ・気体の種類による特性が理解できる。 ・様々な水溶液の性質を理解できる。
	10	2章 いろいろな気体とその性質 【実験】気体の発生・捕集		
	11	3章 水溶液の性質 【実験】水にとけた物質のとり出し 4章 物質のすがたとその変化 【実験】エタノールが沸騰する温度	レポート提出 小テスト 期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の均一性を、粒子のモデルで考えることができる。 ・状態変化に伴う体積や質量の変化について、粒子のモデルで導くことができる。
	12	【実験】水とエタノールの混合物の加熱		
三学期	1	「光・音・力による現象」 1章 光による現象 【実験】凸レンズによる光の屈折実験 【実験】凸レンズによる実像・虚像の確認	レポート提出 小テスト 学年末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・光の反射・屈折について、規則性を見出すことができる。 ・凸レンズのはたらきについて、物体の位置と像の位置およびぞうの大きさや向き関係を見出すことができる。 ・物体を視覚で捉える原理を理解できる。 ・音と振動のようすとの関係を理解できる。 ・力のはたらきを認識し、力が大きさと向きによって表されることを理解できる。 ・力の大きさをばねののびとの関係を調べられる。
	2	2章 音による現象 【実習】楽器づくり 3章 力による現象 【実験】ばねののびの実験 (フックの法則) 【実験】力のつり合いの実験		
	3			

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。